

# ぶらす

出居清太郎ワールドへのご招待

No.111  
2020・秋

理不尽、不条理を超えて

## (1) 不平不満と向上・改革

ある会員が、「不平不満を持つなど言われませんが、怠けている人を見ると、よい気持ちではありません。小言の一つも言いたくなります。どうすればよいでしょうか」と言ってきた。

あの人は怠けている、けしからんと侮るようでは真心とは言えない。そういう時はこう思うのですよ。忙しい最中にマゴマゴしている人があれば、「あの人の足はマ

メに動いているなあ」「あちこちキヨロキヨロしている人を見れば、「あの人の目はよく動いているなあ」 どうです、こう思いながら、教え導いていけば不平不満はないでしょう。

(出居清太郎先生の言葉から)

不平不満があるから進歩向上があるのじゃないですか？ 現状肯定、現状に満足しては改革はできないじゃないですか？ という言い方がありません。

なるほど不平不満が進歩・改革のキツカケになることはあります。しかし、不平不満それ自体が進歩・改革をもたらすわけはありません。

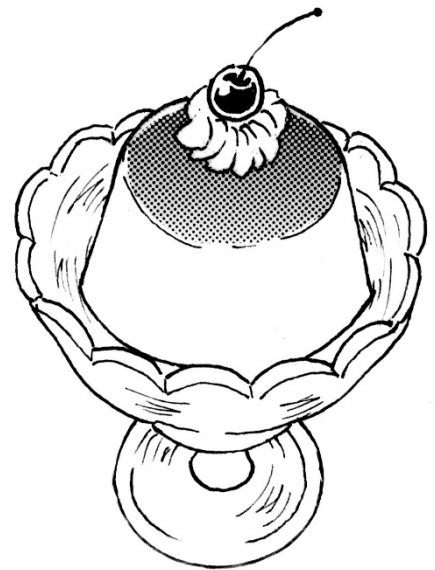
進歩・改革を成し遂げるためには、何をどうしたらいいかという改善策を打ち出さなければなりません。そして有効な改善策を見いだすためには、現状の問題点を確に把握しなければならぬでしょう。

つまり、進歩・改革のために必要なのは、問題点の把握と改善策の提示です。そしてそれは不平不満を持たなくても可能ではないでしょうか、あくなき向上心があれば、むしろ不平不満という感情的なものは、問題点を把握し、改善策を発見する際に、じやまになるのではないのでしょうか。

いかなる相手をも否定したり、見下した

りすることなく、あくまでも相手への敬意を失うことなく、感情的でなく、冷静に、事態に対処することが大事ではないでしょうか。

「不平不満を持たない」という教えは、いかなる場合においても心がけるべき、基本中の基本の一つとすることができるのではないのでしょうか。



カット 齋藤啓子

(2) それぞれの幸せに通じる道筋

(出居清太郎先生の言葉から)

人には一人一人に生きてゆく道筋があります。それぞれ顔が違うように、道筋も違います。今日悟れなくとも、幸せになれなくとも、皆幸せに通じている道筋には違いありません。

右手のない人は、左手と両足とで歩んでいける道筋です。また歩んでいかねばならぬ道筋です。右手のない人は左手のあることに感謝せよと教えてあるのは、右手が欲しいというさびしい思いをまぎらわせるのが主旨ではありません。右手がなくなったら、残っている左手を見つめて、そこにあなたの幸せを望むいのちの親の配慮を見いだして下さい。その時こそ、生かされていると悟る機会なのであります。

人は生きていく中で、さまざまな困難や災難に遭います。それが大きければ大きいほど、人は理不尽さ、不条理を思います。そのとき、

一、人が歩むことになった道は、その人にとって必然の道である。

と納得できれば、その道を受け入れることができるでしょう。現世だけでなく、魂の歴史の中にその種時きがあつたのだと納得すれば。

次に、

二、歩むことになったいかなる道も、歩んで行く中で、必ず幸せが見いだせる。

ことを確信すれば、その道を行く勇気が持てるでしょう。

さらに、

三、私がこの道を行くことになったことの中に、私を幸せへと導く、大いなる働き  
の温かさを感じる。

ことができた時、いかなる境遇にあっても  
明るく、元気に生きていけるでしょう。

右に挙げた、一、の納得、二、の確信、

三、の感じること、いずれも自分自身の内  
からわいてくるものです。

そのため機縁となるものは、人の言動  
であったり、自然の姿であったり、回りに  
いくらでもあるのでしよう。それらに感応  
する素直ささえあれば。

## 編集後記

本誌『ふらす』は、本号をもちまして  
最終号とさせていたたくことになりました  
た。来年2月からは、隔月で『ふゆのあり』  
誌に、同様の趣旨のページを頂く予定です。  
引き続きご愛読いただければ幸いです。

本誌の創刊は平成元年4月ですから、こ  
の間二十一年になります。創刊号から、亡  
くなるまでの二十三年間、出居茂先生にご  
執筆いただきました。捧誠会の松本宏一さ  
ん、池田順子さんには編集・発行にあたり  
大へんお世話になりました。有り難うござ  
いました。

(H・Y)

令和2年10月1日発行 ふゆのあり730号付録

ふらす α 令和2年秋号(通巻111号)

編集人 山本博也

発行所 〒170-0011 東京都豊島区池袋本町3-11-1

修養団捧誠会 壮青少年委員会 TEL03-3971-1493